

光さす場所へ

hirokyuki_chaco



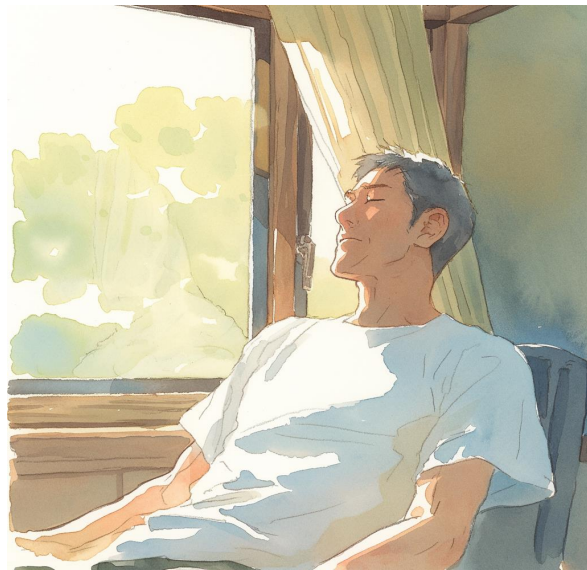
光さす場所へ

hiroyuki_chaco



ぼくは目を閉じて、風の音に耳をすませていた。

それは、ちゃこと過ごした夏の日の匂いを、かすかに運んでくるようだった。

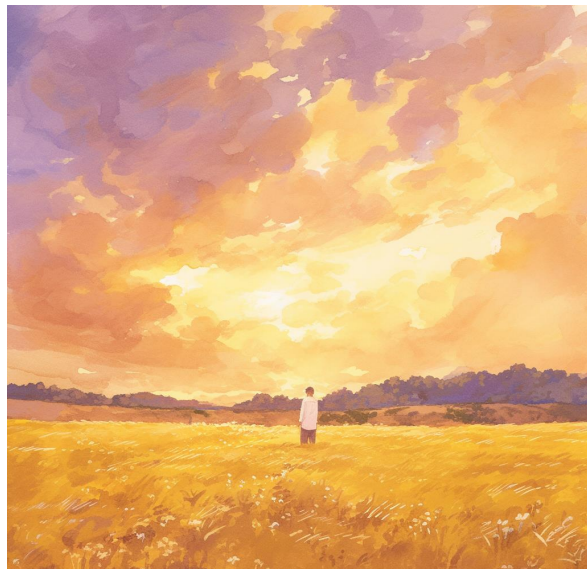


ひかりは静かに、ぼくのまわりを包んだ。

空は遠くて、やさしかった。

そして気づいた。

ぼくのからだは、すこしずつほどこけていることに。



重さも、かたちも、痛みもない。

声すら、もうどこかへ消えていた。

ぼくは、風になっていた。



ためしよみ

は
ここまでです